



未来に向かって

辺野喜 未来さん

平成25年1月、高校バレーの頂点が決まる春の高校バレー女子大会（第65回全日本バレーボール高等学校選手権大会）。下北沢成徳高校（東京）が勝利した。その勝利したコートに山武市出身の辺野喜未来さん（2年）の姿があった。

小学校4年生のとき、お母さんが、「子どもに様々な経験してもらいたい、人にもまれながらたくさんの人と携わってもらいたい」と、地元の『山武ジュニアバレーボールクラブ』入りを勧めた。

小学6年生でエースアタッカーとなり活躍が認められ、世田谷区立北沢中学校（東京）へ入学した辺野喜さん。すぐに頭角を現し1年生からレギュラーとしてプレーし、全国大会を経験。

技術はもちろん走り込みなど身体づくりの場であり、人間形成の場でもあった中学校時代。辺野喜さんは、チームプレーの素晴らしさを改めて知った。知らない土地での学校生活、持ち前の頑張りで学校生活に部活動に勤しんだ。

「泣き」とは、言ったことはあ

りませんでしたね。親は、ただ見守り、サポートするだけです」とお母さんは話します。

辺野喜さんは、中学校3年生のとき全国大会へ出場、3位となり優秀選手賞を受賞。1000ジュニアオリンピックカップ第24回全国都道府県対抗中学バレーボール大会に出場し、優秀選手賞に輝いた。また、選抜チームの12名に選ばれ、日本と韓国で行った大会にエースアタッカーとして出場した。

その後、下北沢成徳高校へ進学。手首の手術をしてバレーができない時もあったそうだが、ポジション・センターとして優勝に大きく貢献した。

実業団でレギュラーとなり、いつかオリンピックの舞台に立つこと。そして、いつまでも大好きなバレーボールに携わっていきいたいという夢を持って、今日も元気にコートを走り回っている。



第57回こども県展

小学生が特別賞を受賞

千葉日報社主催の第57回こども県展が開催されました。応募総数11万9024作品の中から、市内の小学生の3作品が特別賞に選ばれました。

千葉日報社長賞



睦岡小1年 鈴木 歩翔さん
「うしさん、おおきいなあ」

千葉日報社長賞



成東小2年 本堂 光希さん
「みんなでがんばった大玉ころがし」

県造形教育部会長賞



松尾小1年 石橋 夏樹さん
「おおきなトンボ」